

追悼の辞

昨年4月に桑原隆広先生が急逝されてから、早いもので1年半がすぎました。

平成25年の夏に突如入院されたという話しを伺って大変心配しておりましたが、そのあと退院し自宅からの通院治療を受けられながら、年末には新年の職場復帰のためリハビリに専念されているということだったので、少し安堵しているところでした。さらに新学期のシラバスも準備されているということで、先生にお会いできる日も間もないと期待でいっぱいでした。

しかしその期待もむなしく、昨年4月6日に亡くなられたという突然の訃報に接し、驚きを禁じ得ませんでした。享年63才でした。先生には、多くの教えを頂きながら成長していく私たちの姿をこれからも見守っていただきたかったし、先生におかれましても2年後に迫った定年後の新しい人生がスタートする直前でしたが、あまりにも早いお別れに言葉もありません。

桑原先生は京都大学法学部を卒業された後、昭和48年に自治省に入省され、市町村職員中央研修所副学長を辞職されて公立大学法人熊本県立大学教授に赴任される平成18年4月までの33年間、国の自治行政の中核として全国を舞台に活躍されました。

熊本がご出身である先生の格別な郷土愛のお陰で、総合管理学部地域・福祉ネットワークコースの看板教授として迎えられることができました。先生の主要担当科目は学部では「行政組織論」、「税・財政法」、「NPO論」、「新熊本学」を、大学院では「行政組織論特殊講義」を担当して頂きましたが、これまでの先生のご経験がベースになっている分かりやすい講義は大好評でした。学部や大学院のゼミには多くの学生が集まり、国の様々な政策の立案・決定の最前線で指揮を取られてきた先生の実践的なお教えを身につけ、県内外の至る所でリーダー的な存在として活躍しています。研究におかれましても、九州における道州制に関する研究について熱意を持って着々と進められていました。

社会でのご活動は特に華々しいものでした。教育と研究のかたわら、熊本県や県内主要市町村の主要な委員会や審議会の長として、国レベルでのご活躍の経験を生かし法律、政策、経済的側面から県や県民の発展のために献身的に尽力してくださいました。地域住民の幸せのために県内の至る所に足を運ばれ、決して苦勞を惜しまない先生のお姿に写るのはまさに万事における人権の大切さでした。

先生の最後のお勤め先となった熊本県立大学総合管理学部、先生を慕ってきた多くの学生達や教職員、そして先生が大切に見守り続けてきた郷土熊本は、先生が遺された尊い利他の精神を決して忘れることはありません。

ここに先生の名を冠した本追悼論文集を捧げ、私たちの感謝の気持ちを表したいと思います。どうか、桑原先生、心安らかに眠りください。

2015年10月

総合管理学部長 黄 在 南